

H 2 0 年 7 月 1 1 日



さくしん

下氷鉤小学校

(校長室だより 3) 校長 大内 徹

校長室の窓のむこうから、つゆの雨に濡れながら、美しく咲いているアジサイの花が目に入ってきます。アジサイには雨がやっぱりお似合いの感じがいたします。心配された天気の中をくぐるようにして、6年生が佐渡での「海の学習」を終えて戻ってきました。今回、隊長を務めた教頭先生から、次のようなコメントをいただきました。

111名全員、怪我も病気も船酔いもなく、元気に二日間をすごすことができました。出発の朝、雨で天候が心配でしたが、佐渡は二日間共に好天に恵まれ、たらい舟や磯学習など、海の生活を十分に体験し楽しめたように思います。行動の機敏さ、クラスのまとまり、靴をそろえる、挨拶など成長著しい姿が随所に見られ、頼もしさを感じました。早朝の稲鯨港の漁船の水揚げ見学のときは、漁港で働いている人たちに、「さすが長野県の小学生はきちんとしているねえ」と褒められました。積み重ねてきた下氷鉤の子ども達の力を改めて感じさせられるとともにうれしく思いました。

7日(月)職員室で文書に目を通してしていると、3年生のA君が担任の先生に付き添われて、大きな木の枝をかかえて私の所にやって来ました。どうしたのかと思って、よく話を聞いてみると、前の週にミニグランドの木に登って遊んでいたら、枝が折れて、自分も落ちてしまったということでした。腕に軽いかすり傷を負ったようでしたが、大事に至らずよかったと思いました。A君はそのまま帰宅したようでしたが、土曜日、日曜日と家で過ごす間、折ってしまった枝のことが気になっていたようでした。お家のお母さんにこのことを話したらしく、お母さんからは担任の先生に「遊んでいる時に、枝を折ってしまい、ずっとそのことが気になっているようなので、話を聞いてやって下さい」というお便りでの連絡があったのです。自分が折ってしまった枝のことが気になっていて、話さずにはいられない状態になっていたA君の気持ちを思うと、正直な子どもだなあと感心するばかりでした。周囲に人がいなければ、枝くらいだからと放っていく子どももいるかもしれません、だれが折ったのかと騒ぎになってから、人に言われて申し出てくる子もいるかもしれません。誤って、枝を折ってしまった場合でも、行動の仕方は様々でしょう。「まずいことをしてしまったな。このままでいいのか?」という、自責の念とまでは言わずとも、自己に問う気持ちがなければ、お母さんに話すこともなかっただろうし、気に病む

こともなかったであろうし、また、すすんで申し出ることもなかったに違いないと思いました。「怪我がなくてよかったね」の私の一言に、A君はすっきりした表情で職員室を出て行きました。私はこのことを通して、子どもさんとお父さん、お母さんとの人間関係がどのようにつくられ、学校や先生、そして友達のこと、どのような会話がなされているかが大切であり、更に、お家でのお子様への対応の仕方によって子どもの育ちも大きく変わっていくなあと痛感いたしました。親として、どのように子どもを学ばせていくか考えさせられた出来事でした。私も含めて一人の人間が成長していく過程には様々なことが起きます。過ちは過ちとしてしっかり認め、向き合って、そこでどのように責任をとっていくか考えさせることができ、こそ、過ちが単なる過ちで終わらず、学びの場となっていくのでしょう。

夏休みまで二週間ほどとなりました。暑くなってくると川や用水路で遊ぶ子どもも出てきます。保護者の立場からも、近隣のどのような場所が危険であるか熟知の上、お子様に日頃から指導をお願いします。また、市内でも児童生徒が巻き添えになる交通事故も多発しております。学校でも安全指導は行っていますが、左右の確かめが不十分な子ども、一時停止をしなくてはいけない場所でできない子ども、横断歩道を渡った直後など、縁石の上を歩いている子どももおり、ヒヤッとする一幕もあります。安全に対する意識を高め、自らの命を自ら守ろうとする態度や力が身につくよう、お家の方でも繰り返しご指導下さい。先日、南バイパスから学校前の道に入り、山崎歯科医院様の所から左に曲がる道を朝の登校時に通っていく車があり（進入禁止）、子ども達が可哀想だから何とかしたい。自分からも関係当局にお話したいという旨の電話が学校にございました。本校の保護者の方ではなかったようですが、前の道を通りかかりながら、常に危険を感じていらっしやるようでした。様々な方々が子ども達の安全を気にかけていただけることをありがたく思いました。

百件ほど、ルール違反や危険な状況があるとすると、そのうち九十八～九件は事故につながらずとも、残りの一、二件の違反や危険な状況が事故につながるものです。事故というものは偶然でなく、起こるべくして起こるものだと言われています。学校の中もそのような視点から、怪我や事故につながりそうな箇所や状況がないか確認しています。今まで何も発生しなかったから、大丈夫だという保障はないからです。市からいただいている予算には限りがあり、心配な箇所や状況全てに対して対処できているわけではありませんが、危険な箇所・状況、及び事故につながる可能性は極力取り除いていくつもりでいます。お気づきの点がございましたらいつでも結構ですのでご連絡下さい。

この校長室だよりは、校長講話、学校だより「ひがの」と一緒に、本校ホームページに掲載されております。ご参照の上、少しでも学校の状況についてご理解いただければ幸いです。